

---

class...

桜実保乃佳

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

class . . .

### 【Zコード】

Z7948L

### 【作者名】

桜実保乃佳

### 【あらすじ】

これは中学校の頃のお話…

蘭

私と新一は同じクラスに慣れなかつた  
ただそれだけで毎日が変わっていく

この話は作者の体験談です

CPは新×蘭です

嫌な人はBACKお願いします

**F i l e 1・少しの期待 蘭 side (前書き)**

あまり長く続かない話だと思います…  
評価・感想・ダメだしお待ちしております!

## File 1・少しの期待

蘭 side

私の今日は中学校の入学式

『新一と同じクラスに慣れるかな』

少しの期待を膨らませた胸：

新しい制服

初めての制服：

「ら～ん！！」

おっはよ～「

今、声を掛けた人は私の小学校いえ、それよりもっと深い存在かも  
しれない

鈴木園子…

少しの不安と少しの期待を持つて私達は中学校に向かつた

中学校

「あ！

私と蘭、同じクラスだよーー！」

園子が嬉しそうな声を出した

「ホントー！」

私は、クラス名簿を見た

「 1 - A 」

『 鈴木園子 』

『 毛利 蘭 』

少しだけ笑顔がほころぶ…

『 新一、新一はどうかな…。 』

A組の名簿を見たけど新一の名前はどうにも載つていなかった

File 1・少しの期待 **蘭side** (後書き)

Happy「Hello!—!」

蘭「結構連載小説書くのね‥。」

園子「つていうか書きすぎじゃなー?」

Happy「そこは作者の自由だからさーー。」

蘭・園「次回も宜しくねーー。」

平成22年6/4 Happy & L u c k y

## File 2・同じクラスじゃない 蘭side

私が唖然としていると

「蘭！」

ダンナとは同じクラスになれたのー?」

園子が聞く

「…ダメだつた

まあ、1年だけだし

どうにかなるつて…!」

私は無理やり笑顔を作った

「よう！

蘭、園子…！」

新一ー?

後ろから私の昔からの幼馴染で、友達の工藤新一

新一はクラス名簿を見て

「俺はB組

蘭と園子はA組か…。

ま、1年だけだからさ…。」

新一はニカリと笑うとポンッと私の頭の上を軽く叩いて自分の教室に入つていった

私と園子も教室に向かつた

でも信じられなかつた

この小さな出来事が大きな出来事になつていいくなんて

## File 2・同じクラスじゃない 蘭side (後書き)

Happy「どうも～」

新一「蘭と同じクラスになれなかつた。」

Happy「どんまい！」

新一「次回も宜しくなー！」

平成22年6/4 Happy & Lucky

File 3：入学式 蘭side

私達が教室に入つて5分後

「ねえ、私と友達にならない？」

1人の女の子が私と園子の前にやつて來た

でも

うわ！

小さい…

見た目で130cmくらい…

小学3年生くらいだな…

「良いよ！！

私は毛利蘭！

宜しくね！！」

「私は鈴木園子よ！

宜しくね！」

私と園子は自己紹介をした

「私は水氣朋！  
みなきとも

皆からは「とも」って呼ばれてるのー！

宜しくねーー！」

あと、背が小さいのは

生まれつきだから気にしないでね！

あと私からも友達を紹介したいの…

みー！

しーちゃん！

おいでよ～…！」

朋ちゃんは友達を2人連れてきた

「髪が長い方が毛利蘭さんで

力チユーシャの人が鈴木園子さん！」

2人の女の子私達のコトを紹介している

「私の名前は名橋美華

あだ名は「みー」でも、そりやつて呼んでいいのは朋と志菜だけ  
だから…。

私のコトは「みか」つて呼んでね？」

「うん！

宜しくね」

私と美華ちゃんは握手をした

「橋川志菜

あだ名は「しーちゃん」ですが、みーも書つたとおりやつ呼んで  
いいのは

朋とみーだけです…。

まあ、宜しくです…。」

私と園子はすぐ3人と仲良くなつた

そのとおり

「おはようございます！」

今日は、皆さんが待ちに待つた入学式です！

中学生という気持ちをしつかり持つて頑張ってください！」

生徒と担任なのかな？

分からぬけど先生が入ってきて

「廊下に並んでください！」

皆は廊下に並んだ

そして体育館に向かつた

入つて整列する

「これから平成19年度帝丹中学校入学式を始めます。」

校長先生や生徒会長さんの話が終わって

「次は担任の先生・副担任の紹介です…。」

誰かがそういうと5・6人くらいの先生がステージの前に出てきた

「まず1・Aの担任の先生は『速水真知子』先生です！」

担任の先生が「宜しくお願ひします」という感じでお辞儀をした

私の担任の先生…

「私の担任の先生か  
小さい声でつぶやいた

「次に1・Bの担任は『名菜氣裕希』先生です！」

新一の担任の先生か…

「新一のところは男の先生なんだ…。」

私はもう一度小さい声でつぶやいた…

それからC・D組の担任と副担任の紹介が終わり私達は整列したまま教室に戻った

File 3：入学式 蘭side（後書き）

Happy「今日はオリキヤラさん=蘭の友達に来てもらいました！」

朋「じゃつもーーー！」

美華「イエーイーーー！」

志菜「始めまして…。」

Happy「オリキヤラの名前は友達の名前あだながモデルになってます！」

朋「へへそりなんだ。」

志菜「ちと、ビックリ！」

美華「偶然もあるんだね…。」

Happy「そりですね…（自分が考あつえた名前だろーーー）」

朋「あたしらこれからも登場するシーンってあるの？」

美華「うんうん！」

志菜「そこまでして出たいか？」

朋・美「うんーーー！」

H a p p y 「多分出るんじゃないかな?」

朋・美「やつた」

志菜「次回も宜しくね!—!」

平成22年6/5 H a p p y & L u c k y

俺は入学式を終えて1-Bのクラスに戻った

席に着くと

「よッ！」

スゲーボーイッシュな女子生徒が話しかけていた

「アタシの名前は木谷涼美きやすずみ！」

ヨロシク！！

出席番号の関係で席が1番前！

だから後ろの君に話しかけたんだ  
名前は何ていうの？」

木谷が俺に名前を聞いた

「俺は工藤新一。

ヨロシクな！」

一応自己紹介をした

「工藤君は、何か親友とか、友達とクラス別れちゃった？」

……蘭くらいか……

「1人居るぜ……。

毛利蘭つてヤツ……。

俺の小さい頃からの幼馴染・

泣き虫で・でも空手蹴つてスゲー怒ると怖いんだー！」

蘭の「ト」を話しきれると

「へえ？」

じゃあ、工藤君はその毛利蘭さんの「ト」が好きなんだ

「バツ！バー口ー／＼／＼

ついついあんな風に言つてしまつ

いえるかよ…

俺が蘭のコトが好きだつて……

「私も居るんだよ。」

## 水気朋にて人と

橘川志菜つて言う人がね…。  
「

『結構多いな。』

俺は思った

それから（まあ、1・2日くらい）だけど）俺は席順の関係もあって木谷とよく話すようになった

結構、話の合ひやつで面白こむヤツだった

**File 4：新一＝俺のクラス 新一 side** (後書き)

Happy「新一と涼美に来てもらいましたーー！」

新一「どうも…。」

涼美「やつはーー！」

Happy「涼美って言つ名前も私の友達が名前のモデルなのーー！」

涼美「へえ…。」

新一「次回もヨロシクなーー！」

Happy「評価・感想お待ちしておりますーー！」

涼美「ばいばーいーー！」

平成22年6/5 Happy & Lucky

私と園子と入学式のときに話しかけてきた子の3人はいつも行動はともにするようになっていた

入学して4日目の休み時間

「蘭ちゃん……」

「やつほ……」

「…。」

3人が私と園子の前にやつてきた

これはいつもの「ト…

でも今日は違った

「ねえ、蘭、あれ新一君じゃない？」

園子が私の肩を叩いて廊下を指す

「あ。

ホントだ…。

あれ？」

新一だ…

「涼美もやるよねえ~」

美華ちゃんがいつ

「え? ?」

私は美華ちゃんに聞き返す

「あの子、私達と幼馴染で木谷涼美って言つんだ。  
恋しちゃつた??」

志菜ちゃんが少し笑つて言つ

「新一……。」

私は小さくつぶやいた

『木谷涼美…。  
許せないわ…!  
蘭の新一君を…。』

園子はこんな「アホと思つてたらここね…」(後日談)

File 5・誰？ 蘭side（後書き）

Happy]お早うゴザイマスー！」

涼美「何か段々やばくなつていいく感じ？」

Happy「さあ？」

涼美「まあ良いやー！」

次回もヨロシクね

平成22年6/6 Happy & Lucky

File 6・屋上にて 涼美side（前書き）

初めてのオリキャラさんsideです！！  
至らない点もあるかとは思いますがまあ、読んで見て下さい！！

## File 6・屋上にて 涼美side

アタシは今、屋上に居る

なぜか工藤君も…

そしてカチューシャのつけた強気系の女の子とロングヘアーの女の子

更にアタシの幼馴染の朋・志菜・美華がいた

「ねえねえ、涼つて工藤君のコト好きなの？？」

朋が聞いてきた

「ハア？？？」

何を聞くかと思いまや…

イキナリ工藤君のコトが好きか？？

意味わかんない！

「何で？？」

アタシが聞くと

「工藤君は蘭の夫なんだからねーーー！  
奪うなんて許されないからーーー！」

カチューシャの付けた女の子がアタシに向つ

プチン…

もつ我慢できない…！

話しかけただけで恋人奪い扱われちゃ…

「アタシはただ単に話しかけただけでしょ…？  
友達になろうとしただけなのに…？」

何でそこからアタシがまるでそのロングヘアーの女の子の恋人奪  
い扱いされなきやいけないの…？  
いい加減なコト言わないで…！…！」

こつなるに決まってるでしょ…！…！

アタシは思いつきつ怒鳴つてやつた

ムカツクから…！…

「ね？」

と志菜

「だから言わない方が良いつていつたじやん…！」

ヒ美華

「やう、ならいいケド…

これからは新一君を蘭から奪わないでよ…！…！」

クウツ！！！

悔しいイイー！！

「そんなに話しかけたらいけないくらい悪いコトでもあるのー！？」

アタシは言った

「え？？」

強気の女の子が聞き返す

「別に友達を作ろーが  
仲良くしよーが  
その人の勝手でしょ！？  
悪いことでもあるなら話は別だけど…  
友達を作つてはいけないって言う制限は貴女が言う権利はないわ  
！！」

「う…。」

カチューシャの女の子は言葉に詰まっていた

そういうのが正しい…

別に人に友達を制限される方が間違っている…

自由に友達を作る

そんなの当たり前…

「そ・れ・に

アタシは工藤君から全部聞いてるのよーーー。」

「え??」

ロングヘアーの女の子が聞く

「入学式のときに工藤君と幼馴染の話で盛り上がりがったときに…  
工藤君は貴女のコト幸せそうに話していた…。  
だからアタシは貴女の彼オトコに手を出すつもりは無いからーーー。」

アタシは言った

全くその通りだったから…

「あっがとう…。」

ロングヘアーの女の子はアタシに礼を言った

## File 6：屋上で涼美side（後書き）

Happy「うわー！」

眞づ口ア言い放題ーーー。」

涼美「そ、うか、な、？？」

Happy「アタシの友達とそつくりだよ。」

涼美「ホント？？」

Happy「うんーーー。」

涼美「次回もヨロシクねーーー。」

平成22年6/7 Happy & L U C k y

## File 7：部活選び 朋side（前書き）

注意事項！！

その1・そっちゃんは朋がつけた園子のあだ名です！  
ニックネームに関しての苦情は受け付けませんので…

その2・帝丹中学のコトはそっぽり分かりませんが空手部は無いこと  
いうコトになつております！

以上2つのコトが承知できる人だけどうぞ…

ちなみに苦情は受け付けておりませんのでじっくり承ください

## File 7：部活選び朋side

アタシ・みー・しーちゃん・涼美・蘭・そつちゃんは

アタシの家に来ていた

アタシが「遊び～！」って誘ったから…

みーもしーちゃんもあまり自分から友達を誘う方ではない…  
むしろ誘われる方だ…

おっといけないいけない…

話題がそれちゃった…

今日皆で遊び～！

といつたのはただ単に遊びたいからだけは無かつた

そう中学校には言つてまず最初にある大きいコト…

それは

部活選び…

とこつわけでアタシらは今に至る…

「ねえねえ、部活決まつた？？」

「あ、私は今のところ吹奏楽部かな?」

しきやんが考へるよつこいつ

「私決まつてない……」

大きく手を上げて言つみー…

相変わらずだな…

いつも難しく考へるのは苦手で氣楽な人…

「アタシも吹奏楽だよー。」

涼美…

「私はどうしようかしら…。  
テニス部でも入らうかな…。」

そつちやんテニスなんだ…

以外かも…

「私は…

空手があつたら空手部なんだけどな…。」

「え? ?」

## 蘭を返すアタシ

「蘭は空手を蹴つてゐるのよ…。」

「ひつやん、それってマジですか？？」

「…」

怒つたらメチャ怖い…

「ケド、帝丹中学には空手部は無さよ…。」  
「ひつやんがいつ

「私も吹奏楽部に入部しようかな…。」

蘭が言つと

「え～！」

蘭が吹奏楽行くならアタシもアタシも…。

「ひつやん…

まるで蘭がいないとダメだつて言つ方だよ明らかにその言つ方は…

「ケド、まあ今すぐ決めつけてケじやないから眞理に考えてよつ…」

「…」

ま、そりなんだナビねー！

でも、みーょりアタシは長い間考へないから…

まず考える時間ないかも…

File 7：部活選び 朋side（後書き）

Happy「んばんわーー！」

朋「みーってホント氣楽だ。」

Happy「ホントだねーー！」

朋「作者は氣長なほつ？」

Happy「うづこーー！」

決めなきゃいけないことがあつたらすぐ決めるーーー！」

朋「だよねーー！」

Happy「ウチの友達にも似た人がいるよーーー。」

朋「そなんだーー。」

Happy「次回もヨロシクねーーー！」

平成22年6/8 Happy & Lucky

File 8：私も一緒に入部します！！

志菜 side (前書き)

注意事項 2！！

園ちゃんは志菜がつけたあだ名です！！

## File 8：私も一緒に入部します！！

志菜 side

私たちの手元には一枚の紙がある

『入部届け』

やはり…

私は何にしよう…

吹奏楽部？

美術部？

バト部？

はあ…

「うつこいつて元気！」

「部活ビーするの…。」

つて聞くのがNicoe!!

「アタシはやつぱり吹奏楽…！」

朋は吹奏楽ね…

「ウチもかな…。」

みーも吹奏楽か

「私も一応第1希望は吹奏楽部かな…。」

「私も…。」

蘭と園ちゃんもか

「私も吹奏楽部入部しようつかな…。」

「ホント！？！？」

じゃ、これで幼馴染4人！

全員同じ部活だね！！」

朋：

「朋、テンション高ッ！！」

みー…

「でも、涼美ちゃんは？」

確かに…

蘭の言つとおりだ…

「あ、大丈夫！！

涼も吹奏楽部だから…！」

と朋…

「なら良かつたわね…！」

園ちゃん…

こうして私達は入部届けに記入と印鑑を押してもらい入部届けを提出した

## File 8・私も一緒に入部します！！

志菜 Side (後書き)

Happy「んばんわーー！」

志菜「どうも…。」

Happy「今田は志菜さんに来ていただきましたーー！」

志菜「私【】に一人で来たの初めて…。」

Happy「そうだね…ーー！」

あと一人で出でないのは美華だけかな？

オリキャラで言つたら…。」

志菜「そうだね…ーー！」

Happy「中学校は楽しい？？」

志菜「ええ…。」

結構楽しめます…。」

Happy「別に敬語じゃなくていいの!!…。」

志菜「良いの良いの!!

次回もヨロシクねーー！」

Happy「あ、初めて敬語じゃなくなつた…。」

志菜「バイバイーー！」

平成22年6/9

Happy  
&  
Lucky

## File 9・変わってしまったコト 蘭side

今日の2時間目は音楽

だから音楽室…

キーンパーンカーンパーン

チャイムが鳴った

「あつー、」

「これで2時間目の授業を終わります…。」

クラス委員長が号令をかけて音楽の授業が終わった

「蘭ー！」

戻ろッ

朋ちゃんが私の元にきて

園子と美華ちゃんと、志菜ちゃんが一緒になつて教室に帰った

帰つてる途中に

廊下で新一を見かけた

私達の居る方向に向かってくれる

他の男子生徒と一緒に

つていつても1人だけだけど…

「新一…！」

私は新一に声を掛けた

新一反応してくれるかな？

手まで振ってくれたりして…

私は…

そのとき

期待しそぎてしまったのかも知れない…

スツ  
…

新一は私に反応するコトもなく

私の横をスルリと通り過ぎて行つた

「え？」

声が聞こえなかつたのかな？

「新一！？」

今より少しだけ大きい声で新一の名を呼ぶ

.....。

反応が無い

今、新一、私のコト“無視”した  
.....?

## File 9・変わってしまったコト 蘭side（後書き）

Happy「新一は蘭を無視！？」

蘭「どうじゅつけたのかな…。」

Happy「さあ？」

蘭「次回もよろしくね！」

平成22年6/11 Happy & Lucky

File 10・嫌いなの〜? 美華 side

蘭は教室に戻ると自分の席に座つたままショック状態に陥つていて動かなかつた

朋・園子ちゃん・しーちゃんが励ましてたけどすでに魂がなくなつています状態…

授業だけはちゃんと受けていたようだけど…

そして帰りのHRが終了して今日から開始する部活の部屋へと急いだでも私ツラうつかりしちやつて

今日は部活が無かつた

部活は明日からだった…

1人でなんか体力つかつちやつたな〜って思いながら帰路に付いた

そのときに

「なあ、オメーつて蘭の友達か?」

と1人の少年が私に話しかけてきた

「うん。

貴方は?」

私は聞き返す

「俺は蘭の幼馴染の工藤新一。  
ちよつといいか?」

うへん面倒くさいな…

まあ、いいや!

「うん!  
いいよーー!  
ところで私も聞きたいんだけどや  
工藤君って蘭ちゃんの『ト嫌いなの~?』

私は聞いた

工藤君は黙っていた…

ま、私は正直ビリでもよかつたけど…

聞いてみるのも悪くないかな?…って思つたんだよね~

File 10：嫌いなの～？ 美華 side（後書き）

Happy「お久しぶりです！！」

美華「初めまして～

登場するのは初めてだ！

1人で！！」

Happy「そうだね～

つていうか、おっちょこちょいだね…。」

美華「ハハハ～。

まあ、ソコは気にしない！」

Happy「ホント私の友達にそっく～（呆れ）」

美華「次回もよろしく～」

評価・感想心よりお待ちしております！！

平成22年6/18 Happy & L u c k y

## File 11：嫌いじゃない 新一side

俺は場所を変えて今、喫茶店に来ていた

名橋と一緒に…

名橋は平氣で注文したアイスコーヒーを飲んでいる

ジャンケンに負けたから代金を支払うのは俺…

金がない…

「とにかく、もう一回質問するけど藤君は蘭ちゃんのマトが嫌いなの？」

名橋が聞く

別に嫌いってワケじゃないけど…

何かちよつとな…

「別に嫌いってワケじゃねえんだ…。

でも、大きい声で

『新一』って呼ばれたら恥ずかしくて返事返せないじゃねえか／＼

「じゃあ、要するに藤君は蘭ちゃんのマトが好きなんだ……。」

な・名橋！――！

「あれ？

違うの――？

でも好きであれ嫌いであれ今の気持ちを蘭ちゃんに伝えなさいよ――！

蘭ちゃんどつてもショック受けてたから――。

『私は新一に嫌われてるかもしない……』って言っていたからさ――！

じゃあ工藤君、いつ、蘭ちゃんに言うの？

何時が良いか――

明日で良いか――！

「明日の昼休みに言つよ――！

サンキューな名橋――！」

俺は礼を言った

そのとき

「チョコレートパフェお待たせいたしました。」

「あの～。

俺頼んでね――！

へ？

何かの間違……

俺が言いかけたとき

「いっただつきま～す！！」

「名橋…

俺、金ねえんだけど……。

「だつてお腹すいちゃつて…  
ま、成長期だからしじうがないよーーー。」

名橋はそのままバクバクパフェを食った後

笑顔で

「工藤君！

「馳走様でした！ーーー。」

と黙つて帰つていった

金欠になつた…

俺はその後  
金がなく会計した後

名橋はホントに気楽なヤツだと分かつた…

## File 11：嫌いじゃない 新-side（後書き）

Happy「お早うございますーー！」

美華つてホントに氣楽だもんね～」

新一「ホントだぜ…。」

Happyかと言つて美華をそんな風に言つなんて許せないーー。  
御仕置きしてやるーー！」

新一「オメーから言いだしたことだらーーー！」

Happy「関係ないーーー！」

新一「次回もよろしくなーーー！」

新一 脱走（逃げる）

Happy 追いかける

評価・感想・心よりお待ちしておりますーーー！」

平成22年6／19 Happy & Lucky

File 12・良かった！！

蘭side（前書き）

あと、1・2話位で完結かな？

私は新一に呼び出された

屋上に…

何か用でもあるのかな？

そんな「コトを思いながら屋上へと向かった

屋上

新一は屋上から街を見ていた

「新一…。」

私が呼びかけると

「よお！」

蘭、来たか。」

新一は私のほうに来た

「何…か用があるんだよね？？」

私が聞くと新一はうなずいた

「俺、昨日、蘭の「コト無視しちまつたな…。オメー

ゴメン。

別にオメーを嫌つたわけじゃねーんだ…。  
ダチも一緒だつたから少し緊張つづーか、恥ずかしくて…  
何か、からかわれたりされるのが嫌で避けちまつたんだ。  
ゴメンな…。」

新一…

「ううん…！」

別にいいの…！

ただ新一が昨日私のコト避けていたから  
私が嫌われたらどうしようつて思つたんだ…！  
良かつた…！」

良かつた！

新一が私のコト避けてなくて…！

「蘭、俺、こんなとこいりで言いつのもなんだけど…

俺は、オメー蘭のコトが…。

ずっと小さいときから好きだったんだ…！…／…／…」

へえ…。

新一、私のコト好きだつたんだ…

つて

「えええええ

ツ…？」

File 12・良かった！！ 蘭side (後書き)

Happy「良かったのは良いけど……。」

蘭「イキナリ皆田それちやつた／＼／＼」

Happy「次回どうなる？」

蘭「次回もようじくね！――」

平成22年6／19 Happy & L u c k y

File 13：好き  
new-side (前書き)

完結です

蘭は驚いていた

ま、驚いて当然だ…

「私のコトが……！」

「ああ…。

『愛してゐる。

』の地球上の中でも一番。』

蘭はビックリした返事をくれるんだ…

「…った」

「え？？」

聞き返す俺

「良かつた！！

私も新一のコト好きだったの／＼／＼＼  
だから嬉しいよ…。』

蘭は笑顔でOKの返事をくれた

「蘭…。

「ありがと…。』

そのとき

「キャア?  
ちょっと押さないで  
ウワツ!!」

どつしーん

「園子!?

名橋・木谷..。」

の3人ともう3人が出てきた

「蘭!!

良かつたね!!

新一君!

アンタ、蘭を幸せにしてあげなさいよ!!?」

園子..

「わあってる!!

俺は一生、蘭を大切にする!!」

「ヒューーー！」

カツコイイーーー！」

あ…

園子だけじゃなかつたんだこの場に居るのは…

俺らはこの後休みが終わるまで冷やかされた

でも何となく嬉しかつた

File 13・好き 新一side（後書き）

Happy「どうも～

ついに完結です！～」

新一「今まで有難うございました！～」

蘭「短かつたんじやない？

連載してた期間。」

園子「確かに…。」

涼美「でも楽しかった！！

志菜「そうだね。」

美華「これからどんな作品を書くの？？」

朋「知りたい知りたい！～」

Happy「まだ決まってないの…。」

全員「え～～～～ッ！？」

Happy「気が向いたら書いつか？

それにまだ連載2作品残ってるし…。

それに今は短編を中心的にしようかなって…。」

全員「…」

Happy 「これからもよろしくお願ひします！！  
短い期間でしたが有難うございました！！」

全員（作者も含む）「ではでは～」

今まで本当に有難うございました！！

これからも応援よろしくお願ひいたします！！

平成22年6／19 Happy & Lucky

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7948l/>

---

class...

2011年2月15日06時09分発行